

令和元年度第3回古賀市地域活動サポートセンター運営委員会

会議録

【日時】 令和2年2月20日（木）14時00分～15時30分

【場所】 地域活動サポートセンター「ゆい」

【出席者】

（委員）村山安廣会長、納富育代委員、渋田昇委員、大庭久美子委員、柳武繁行委員、秋山実里委員

※欠席…佐々木洋子副会長、山田沙織委員、柴田芳孝委員、木村美幸委員

（事務局）介護支援課 課長：星野美香、介護予防係 係長：岩熊和洋、梅谷佐和子、清水崇之、大山由紀子、大嶋真貴、谷口治、三原紀子

社会福祉協議会 船越郷子

古賀市地域活動サポートセンター条例施行規則第16条第2項の規定により委員定数10名のうち過半数の出席があり、会議は成立。

【会議内容】

1. 開会あいさつ（介護支援課長）

古賀市では2月19日に古賀市新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、主に高齢者等を対象とした閉鎖空間における市主催の行事について、原則中止する方針を決定した。そのため「古賀市地域包括システムのいま」と題し、3月3日に開催予定であった体制整備及び古賀市の高齢者の現状についての報告会を中止した。また、2月28日に開催予定であった「生き生き音楽交流会」も中止の決定をしたところである。

本日は古賀市の高齢者が家に閉じこもらずに元気に介護予防に取り組んでいただいている報告が中心となるが、日々刻々と新型コロナウイルス感染症の状況は変わっており、その他の主に高齢者が集う活動についても対応を検討中であることをご報告申し上げたい。

また、地域活動サポートセンター運営委員の皆様の任期が平成30年の7月1日から2年間であり、会議としては本日が最後となる予定である。2年間という期間ではあったが、皆様から多くのご意見をいただき感謝申し上げますとともに、今後の事業の参考にさせていただきたく、本日も活発なご意見を賜りたい。

2. 会長あいさつ

先程中止の報告があった「生き生き音楽交流会」は今年で4回目となり、多くの市民に認

識されてきており、中止となって残念という声も聞こえるが、新型コロナウイルスが未知のウイルスであるので私達も気を付けなければいけないと思う。

本日も皆さんの知識を生かし、運営の適正化を図るため活発な意見交換をお願いしたい。

3. 議事内容

(1) 令和元年度地域活動サポートセンター事業報告

①介護予防サポーター活動支援事業

②介護予防運動活動支援事業

③介護予防音楽活動支援事業

《質疑》

- 介護予防サポーター活動支援事業の取組で自治会等にアンケートを実施するとある。もし福祉会でも実施の予定があれば、社協でも5年に一度福祉会長にアンケートを実施しており令和2年度がその該当年度になるので、社協と地域活動サポートセンターとで事前に打ち合わせを行いながら、意義のあるアンケートとしたい。

⇒ できれば福祉会にもアンケートを実施したい。事前に打ち合わせを行い、社協にもご協力いただければと思う。

- 介護予防サポーター活動をボランティアとして今後も長く続けるためには活動ポイントも含めて考えていく必要があると思う。

⇒ 自分自身がボランティアで出来る範囲を明確にしていくことが大切だと思う。介護予防サポーターの皆さんの意見を伺いながら話し合える体制づくりをしていきたい。

④古賀市高齢者外出促進事業

《質疑》

- 外出促進事業の対象となるイベントが6月から開始し、1月で終了する。実際には年間を通して行っているイベントも多く、地域によっては毎年日程が決まっているイベントもある。通年で事業を実施できないか。

⇒ 現在はハンドブックを中心とした外出促進事業となっており、ハンドブックに掲載されているイベント参加者に対してシールを貼ることになっている。掲載されていないイベントに関しては、その都度登録申込をしていただくとシールを貼れるようにしている。地域・行政の年間のイベントが決定する4月中旬までイベントの登録申込を受付け、それから日時や場所の確認を行いハンドブックの印刷・発注を行うため事業の開始が6月になる。

2・3月に実施する行政のイベントについてはシールを配布し、次年度の応募に繰り越して利用できることとしているが、地域限定のイベント場合は地域によって開催されるイベントの数に偏りがあり、参加できる人だけがシールを集めることができ当選確率

にも偏りが生じるため対応はしていない。シール配布対象外の期間をどのようにするかは検討中である。

本事業は定着していると認識しており、スマホのアプリを導入することにより通年事業とすることも可能ではないかと考えているが、ハンドブックは現在の利用者に喜ばれている現状もある。新しい形の外出促進事業とするためには工夫が必要である。今後も研究していきたい。

⑤地域活動サポートセンター運営事業

《質疑》

- ゆいさぽビギナー教室の開催について、募集人数によって開講する講座を調整するとあるが、古賀市として必要があると判断した講座は人数に関わらず開講してもよいのではないか。
- ⇒ 真摯に受け止めさせていただきたい。ただ、介護予防サポーターの養成講座も含め、ゆいさぽビギナー教室は将来的に介護予防サポーターの活動に繋げたいという思いがあり開催している。単に人数が少ないから開講しないというわけではない。地域のニーズがあるものについては人数が少なくても実施したい。

⑥生活支援体制整備事業

《質疑》

- 4月からクロスパル古賀の指定管理者が変わるという話だが、ゆいとクロスパル古賀で連携して行っている事業はあるのか。せっかく古賀市の施設としてあるので、もう少し有効利用できないか。
- ⇒ 現在、ゆいとクロスパル古賀で連携して行っている事業はないが、クロスパル古賀が高齢者向けに行っている教室等の周知を図ることはできる。今後他の関係機関と連携していくことも考えたい。
- 新型コロナウイルス感染症対策本部が設置された状況だが、地域支え合いネットワーク全体会議のような会議は開催することはできるのか。
- ⇒ 昨日の新型コロナウイルス対策本部の第1回の会議で、今年度中の数百人単位の大きな会議については中止が決定した。これからの状況によって古賀市として対策本部を中心に各課で調整をして方向性を決定しなければならないが、現在中止と決定していない事業に関しては行われるという前提で進めていきたい。地域支え合いネットワーク全体会議については、令和2年度の取組みとして新型コロナウイルスの状況を見て開催の判断を行いたい。

4. 閉会あいさつ

現在の運営委員の皆様が地域活動サポートセンター運営委員会へのご出席は今回が最後となるが、これからも継続してご支援いただきたい。

地域活動サポートセンターでは、行政主導からサポーターや市民が主体となった活動にシフトすることを進めている。残念ながら開催できなかった第4回活き生き音楽交流会も、これまでは外部に委託して開催していたが今年は職員とサポーターの方の協力で市民主体で行う予定であった。また、古賀市いきいきボールンピック大会の予選会についても30年度よりシニアクラブに運営を委託している。今後も市民の皆さんのお力を借りて事業を進めていきたい。